

# 植物の病気 AIが診断

法政大など

法政大学の鍵和田聡専任講師らは人工知能（AI）を使い、植物の病気をスマートフォン（スマホ）などの画像から判別する技術を開発した。キュウリの葉の画像をもとに、12種類の病気などを見分けることに成功した。不慣れた作業者でも現場で簡単に病気を見つけることができる。ドローンで撮影した画像でも解析できれば、農業の効率化に役立つ。

埼玉県農業技術センターを主宰するこの特徴的な共同研究で開を自ら見つけ出すことができた。

鍵和田専任講師らはAIが葉が大きい、他の作物の一種、深層学習（ディープラーニング）を利すいキュウリを対象に試用した。画像解析を得意とした。AIにモザイク病とする技術で、大量のデータや退縮化病など12種類

## 葉の画像で判別、精度8割 農業効率化に一助

の病気の葉の画像と、正常な葉の画像をそれぞれ750枚読み込ませて、病気の特徴を学ばせた。教えたのは別の画像をそれぞれ250枚用意し、見分けるテストをした。正常な葉と12種類の病気のものを約8割の精度で見分けることができた。

しか光の当たっていないなど他の作物でも開発する。撮影画像から病気を判別できるスマホのアプリも開発する。新技術は農業の効率化や人手不足の解消に役立つ。病気を防ぐために農薬散布などをやるが、その作業は大きな負担だ。新技術を使えば経験の浅い人でもすぐに病気に気が付き、適した処置ができる。（遠藤智之）

